

せんとうき

# 館報 尖頭器



「尖頭器」とは主に旧石器時代に使われた狩猟具です

旧石器ハテナ館

史跡田名向原遺跡

旧石器時代学習館

TEL042 - 777 - 6371

平成 23 年 7 月 1 日

【第 11 号】

## 河原石で石器作りを体験

5月15日(日)に石器作りの体験教室を行いました。参加者は10名でしたが、当日は好天に恵まれ、河原へ降りていくと風が爽快でした。

田名向原遺跡では、河原にもある凝灰岩などから作られた石器も出土しています。体験教室ではハテナ館から相模川まで降りて行き、材料となる石を探るところから石器作りを始めて、当時の人さながらにその場で石を割って石器を形にしていきます。

参加者は、ハテナ館の中で見本の打製石斧を手にとってみたり、石器が主に使われた旧石器時代から縄文時代にかけての生活の様子や、石器製作時の石の選び方や製作方法などについての話を聴いたりしてから、相模川の河原に向



石の選び方や割り方について説明



石を落として割る

かいました。河原では危険のないよう、再度安全確認をしてから石器作りの開始です。比較的薄く割れやすい、ホルンフェルスという石の手頃な大きさのものを探し、それをまず上から落として適当な大きさに割ってから、ほかの石で叩いて石器に加工していきました。参加者の中には、初め手頃な石材が見つからなくて困っている人も見られましたが、時間内で全員、無事に完成させることができました。

館に戻って仕上げた石器を柄に装着し、麻紐で固定して実際に木を切ったり、ダンボールで作ったシカやイノシシの目標物に当てたりして、完成した喜びを共有することができました。感想会では、「とても楽しかった」、「またチャレンジしたい」などの嬉しい声が聞かれました。



できたばかりの石器で試し投げ

## 講演会「神奈川の旧石器時代のムラ」(講師:鈴木次郎氏)を開催

5月28日(土)に、かながわ考古学財団の鈴木次郎氏をお迎えして講演会を開催しました。旧石器時代のムラの様子を知る手がかりとして、遺跡からはどのような特徴を持つ遺構遺物が発見されるのか、また旧石器時代の集落研究はどのように進んできたのかという話の後、神奈川県内で見つかった旧石器時代の遺跡を具体的に紹介していただきました。同じ遺跡の中でも、石器が集中して出土する所(ブロックという)がいくつか存在し、ブロックごとに異なる特徴を持っていることや、離れた場所にある二つの遺跡の間で、一つの石材から割られてできた石器があることが分かった例など、興味深い話が聞けました。



# 原始の？を解き明かす ハテナ

## 第1回 旧石器時代の環境

旧石器時代遺跡の調査事例から、当時の生活などを推察する連載記事がスタート。初回は旧石器時代の環境について紹介します。

旧石器時代は氷河期に相当し、現在よりも寒く、乾燥していた気候でした。とくに田名向原遺跡に



旧石器時代の狩りの様子（想像）

住居状遺構が造られた2万年前は最寒冷期で、この辺りは現在より7～8度低く、今の札幌の気温に近かったようです。

このような気候の下、旧石器時代に生息していた動物としてナウマンゾウ、オオツノジカ、ヘラジカといった大型動物が挙げられます。近隣の海老名市ではヘラジカの骨が発見されていることから、相模原にもヘラジカが生息していた可能性があります。当時の植生ですが、現地採取の花粉や炭化材を分析したところ、針葉樹と広葉樹が混在して生育し、下草としてササ類が茂っていたという結果が導き出されました。旧石器時代の人々は食料資源の分布に基づき計画的に移動生活を送っていたという考え方が一般的です。大型動物を狩猟し、木の実や果実を採集する生活を営んでいたのでしょう。

現在、田名向原遺跡は相模川との比高約17mの河岸段丘上に所在していますが、当時はより近い位置に川が流れていたと想定されます。遺跡公園の住居状遺構（復元）付近から相模川を見下ろすと、川のすぐそばにイエを造った2万年前の情景が浮かんでくると思います。旧石器時代の人々は自然の恩恵にあずかるなかで、時には川の氾濫など自然の脅威にさらされることもあったと思いますが、たくましく自然と共生していたのではないかと想像されます。

## 節電のお知らせ



旧石器ハテナ館では東日本大震災による電力不足のために、展示の照明や自動ドアなど一部の電気を落としています。展示が見づらい場合には電気をつけますので、職員までお気軽にお申し付け下さい。節電へのご理解とご協力をお願いいたします。

## 田名向原～勝坂遺跡探訪

6月4日（土）に、田名向原遺跡から勝坂遺跡を目指しながら遺跡の跡地を巡る文化財の探訪を行いました。当日は30名近い方に参加して頂き、汗ばむくらいの初夏の陽気の中、身近な文化財に親しむ一日となりました。

探訪のルートとしては、まず旧石器ハテナ館（田名向原遺跡）を出発し、相模原ポンプ場（谷原古墳）—市場天満宮（当麻遺跡）—夢の丘小学校（当麻亀ノ甲・西原遺跡）—当麻亀形遺跡—当麻東原古墳—下溝遺跡群跡—天応院—下溝稲荷林遺跡—下溝堀の内—下溝八幡宮—勝坂遺跡—旧中村家住宅の順で回りました。

各ポイントでは、随行したハテナ館学習指導員と文化財保護課職員が解説を行いました。今回は遺跡の跡地を見るという事もあり、現状では一見して遺跡があった場所と分からないところも多かったのですが、パネルなどを使って説明すると、参加者の皆さんも熱心に耳を傾けて下さいました。参加した方にとっては、この地域に数多くの遺跡や古墳が存在することを、自分の足で感じる事ができたのではないかと思います。

また下溝八幡宮では、本来なら1月の初不動の日にししか公開されない木造不動明王坐像（市指定有形文化財）を特別に公開していただきました。予定していたルートを巡った後、時間に余裕があったので、古墳時代の祭祀遺物が出土した有鹿谷の湧水地にも立ち寄ることが出来ました。



勝坂遺跡公園



旧中村家住宅



有鹿谷